

令和5年度 県立水戸第二高等学校自己評価表

目指す学校像	民主的な国家及び社会の形成者にふさわしい資質・能力を身に付け、社会の中核として活躍する、心豊かな人間の育成		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
1 昨年度は新型コロナウイルス感染症への対策が進み、授業、行事、部活動がコロナ以前の状態に近づいた。保護者による学校評価アンケートでは「学校行事は活発である」について肯定的評価は 86%(前年度比 12 ポイント上昇)であった。一方、課題は生徒の学習習慣の確立が十分でないところである。生徒の自律的な学習を促すためには、各教科で指導と評価の一体化を進めるとともに、生徒向け課題の質と量を精選することが重要である。生徒による授業アンケート「予習をして授業に臨んでいるか」の肯定的回答が全体で 70%(令和4年度 56%)となることを目標にする。 2 令和4年度卒業生の国公立大学合格者は 114 名であり、8 年連続で合格者数が 100 名を越えた。多くの生徒が進学を希望しており、その希望に着実に応えることができている。保護者による学校評価アンケート「進路指導・面接がよく行われている」では、肯定的回答は 80%を越えている。今年度は SSH の指定も受けており、SSH を含む探究活動・課題解決型の授業実践について、生徒アンケートの肯定的回答が 80%まで上昇するよう、教育課題と授業改善を一体的に推し進めて行く。 3 学校生活をより充実させるために、よりよい人間関係を構築する。そのために仲間と安心して心を通わすことができるように、グループワークを活用してコミュニケーション能力を高める。また、より一層、カウンセリング体制を充実させ、生徒に寄り添う体制を強化する。保護者によるアンケート「生徒の悩みの相談によくのっている」肯定的回答 79%を 80%台に上昇させる。	1 豊かな人生を切り拓く、学びに向かう力の育成	(1) I C T機器(タブレット、電子黒板等)を活用した、協働的な学び合いの推進① (2)探究力を育む教科横断的・課題解決型授業の実践② (3)学びに向かう力を高める、主体的・対話的で深い学びの推進③ (4) S T E A M教育の視点に立った S S H推進による、未来を担う創造性豊かな科学技術人材の育成④ (5)自主的・能動的な学びの推進(学習支援体制の構築、学習動画の活用等)⑤	A
	2 生きる力を育む、キャリア教育の推進	(1)進路希望を実現する、個別進路指導(個別面談)の充実⑥ (2)思いやりや助け合いの心を育成する社会奉仕体験活動の推進⑦ (3)豊かな人間性と社会性を身に付けるための特別活動の充実⑧ (4)社会のリーダーとして活躍するための、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の育成⑨ (5)グローバル社会で活躍する人材を育む、国際理解教育の推進(海外研修の充実)⑩	A
	3 生徒が安心して学べる学校づくり	(1)自律的で責任ある生活習慣の確立⑪ (2)一人一人の悩みや不安に寄り添う教育相談体制の充実⑫ (3)心を育てるグループワーク等を活用した温かな心の育成とよりよい人間関係の構築⑬ (4)校内安全点検の徹底及び危険箇所の早期発見⑭ (5)自然災害避難時等における安全計画の再確認及び危機管理意識の徹底⑮	A
	4 地域とともにある信頼される学校づくり	(1)地域の小・中学校等と連携した教育活動の展開⑯ (2)ボランティア活動や部活動を通じた地域行事への積極的な参加⑰ (3)学校の特色と魅力を発信する学校広報の充実(ホームページ、新聞等)⑱ (4)保護者や学校評議員等との緊密・親密な連携⑲ (5)地域関係機関の連携による、地域と一体感のある学校づくり⑳	A
	5 働き方改革の推進	(1)勤務時間の管理と適正な勤務時間の設定及び勤務時間削減に向けた取組㉑ (2)業務の役割分担と適正化にむけた P D C Aサイクルの構築㉒ (3) I C T機器を活用した業務の効率化㉓ (4)同僚性の発揮と組織で動く意識の徹底㉔	B
	6 授業改善の推進	(1)授業力向上のための相互授業参観の開催㉕ (2) I C T活用スキルアップのための他校・他校種への視察を実施㉖ (3)生徒の授業アンケートを実施(肯定的回答 60%以上を目標とする)㉗	A

別紙様式 2 (高)

三つの方針		具体的目標			
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	1 幅広い教養としなやかな知性を身に付け、自ら考え本質を見抜く力を磨くことで、これからの時代を切り拓く力を育成します。 2 社会の多様性を肯定的に受け止めるとともに他者を思いやり、命や人権を尊重する、心豊かな人間を育成します。 3 協働学習、探究活動、部活動、学校行事等を通して、社会の中核として活躍するための高度なコミュニケーション能力を育成します。			
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	1 新たな時代を創り、社会に必要とされる、自らの意志で学ぶ力と、人生をより豊かに生きる力を育成します。 2 ICT を活用し、他者とつながり高め合う協働的な学び合いを推進し、“Society5.0” 社会で求められる ICT 活用能力を身に付けます。 3 探究力を育む教科等横断的・融合的授業や課題解決型授業の実践を通して、課題発見・解決能力の向上を図ります。			
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	1 本校の歴史ある校風や教育目標に共感し、主体的に教育活動に取り組む熱意ある生徒を募集します。 2 豊かな人間性と社会性を身に付け、社会の中核を担い活躍したいという志を持つ生徒を募集します。 3 自他の個性を尊重し、集団の一員として積極的に他者と協働して学ぼうとする姿勢を持ち、自ら考え自立的に行動できる生徒を募集します。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教科指導	各教科の目標・シラバス等に基づいた密度の濃い授業を展開する。(1①②③④、6②⑥⑦)	・年度初めに、生徒が活用し易いシラバスを作成するとともに、毎時間、綿密な授業計画を作成し、それに基づき、生徒の能力を最大限に引き出す授業を行う。	A	A	・先進校の視察や研究授業等を通じて、更なる ICT の活用、授業改善に取り組む。
		・常に授業内容の点検を行い、より一層の授業改善に努める。	A		
		・より効果的な観点別学習状況の評価法を研究、推進する。	B		
		・効果的な ICT の活用をさらに推進し、授業改善に取り組む。	A		
国語科	1 基礎学力の定着と応用力の伸長(1①③)	・基礎知識の習得と、学びの到達度を生徒に客観的に認識させることを目的に問題演習や小テストを定期的実施する。	A	A	・ICT 機器の効果的な活用法の研究。 ・協働型、探究型学習を授業に取り入れる工夫。
		・知識を生かして自ら読み解く力や論理的に考える力を高めるために学習形態の工夫や学習材（ICT 機器等）の効果的な活用を図る。	B		
	2 課題解決型の学習による思考力・表現力の育成(1②③)	・自己及び他者との対話の場面を取り入れた学習や探究型の学習など、学びを深める学習機会を設定する。	A		
		・学年、図書部と連携して小論文学習・読書指導の推進を図る。	A		
	3 自主的・能動的な学習姿勢の確立(1①⑤)	・主体的に学びに向かう姿勢を育むため、生徒の実態に即した自主学習課題を設定する。	A		
		・ICT 機器も活用しながら目標設定と振り返りを行うことで、PDCA サイクルを構築させる。	B		
地理歴史 公民	1 授業内容の工夫・充実(1①③⑤)	・課題の発見と解決に向けた探究型の指導を取り入れた授業の工夫を図る。	A	A	・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った指導と教材の工夫をしていく。 ・ICT を活用した授業の更なる推進をはかる。
		・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った指導を取り入れた授業の工夫を図る。	B		
		・大学入学共通テスト、私大記述、国立二次に対応するため授業内容、副教材の精選や進度等の調整をする。	A		
		・主権者教育推進のため、時事問題を取り入れた授業展開を図る。	A		
		・指導に生かす観点別評価基準の工夫改善に努める。	A		
	2 カリキュラムの検討継続(1④、2⑥)	・大学入学共通テスト入試科目の変更に伴う、受験に即したカリキュラムの選定を行う。	A		
	3 授業における ICT 技術の有効利用(1①⑤)	・電子黒板とタブレット端末を連動させる等の工夫を凝らし、ICT を積極的に活用した授業を推進する。その際、ICT 支援員の助言を受けながら、充実した活用を進める。	A		

別紙様式 2 (高)

数学	1 基礎・基本の定着を図る。そのための有効な方策を実践・研究する。(1②③)	・問題集や演習ノートを活用し、基礎計算力の充実を図るとともに、家庭における学習習慣の確立を図る。 ・小テスト等を実施し、基礎力の定着を図る。	A	A	・計算力を涵養する方策の検討を行う。
	2 生徒の学力差や進路・個性に応じたきめ細かい指導法を工夫研究する。(1②③、2⑥)	・小テストや定期考査の結果を活用し、学力の強化を図り、演習ノート等の提出を通して個別に指導助言を行う。 ・習熟度を考慮した希望者課外を行い、個々の目標達成のための実践力を身に付けさせる。	A		・各学年の状況に応じた希望課外や、個別指導を更に充実させる。
	3 SSH 事業を含む本校の実態を踏まえた教材の配置・選択をし、その指導法を実践・研究する。(1④、2⑥)	・大学入試に対応できるよう各大学・大学入試センター等からの入試情報に基づき、指導方法及び教材の選択について教員間の連絡・検討を密に行う。	A		・最新の入試情報や新課程についての情報共有を行い、指導力の向上をはかる。
理科	1 自然科学への興味・関心を高めるとともに、科学的に探究する能力と態度と視点を養成する。(1①②③④⑤)	・自然の原理・法則の理解を深め、思考力・判断力・表現力を身に付けること等を目的とし、探究的な授業形態を通して個に応じた指導や、創意工夫をした実験・実習を行う。 ・教科横断的な取り組みや身近な科学的事象を認識させることで、学習への動機付けを図るとともに、科学的思考力を育成する。 ・調べ学習やレポート提出の機会を通して、自発的に学習する習慣を涵養、定着させる。	A	A	・論理的思考力の向上、計算力やグラフなどのデータ解析力の向上を目指す。 ・SSHにおいてはより全校的な取り組みになるよう、教科としても一層協力していく。
	2 スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 事業を推進する。(1①②③④、4⑯)	・大学・研究機関との連携を強化・継続することにより、課題研究を円滑に進める。研究手法や科学的思考力など、課題研究に必要な能力を身に付けさせ、研究者の基盤作りを図る。 ・SSHについて、教員間の共通した理解を図り、教科横断的な取り組みを通して、実践的な活動を円滑に進める。 ・「小・中学校サイエンスサポート」を積極的に推進し、地域の教育活動と連携し、科学への夢を育むために教育支援を行う。	A		
保健	1 評価活動の工夫及び ICT 機器を利用した授業の実践(1①)	・ICT 機器を活用した授業を実践する。また、身に付けたい学力についての観点別評価を工夫し充実させる。	A	A	・ICT 機器の活用方法の工夫。 ・対話的、主体的学習、探究学習の内容をさらに工夫していく。
	2 「生きる力」を身に付けさせる授業(1①③)	・実習を取り入れた授業(アルコールパッチテスト・心肺蘇生法)や視聴覚教材やメディアの活用、グループでの課題学習等を通して、健康に関わる意志決定や行動選択ができるような授業を実践する。	A		
体育	1 ICT 機器を利用した授業の実践及び評価活動の工夫(1①)	・ICT 機器を利用した授業を実践し、種目ごとの観点別評価活動の具体化(小テスト等)と、学年の進行に合わせた身に付けさせたい運動能力についての評価を充実させる。	B	A	・ICT 機器の活用方法の工夫。 ・主体的な学びができるような課題の設定を工夫していく。
	2 集団行動を身に付けさせ、日常生活に活かせるようにする。(3⑩)	・集団行動の実践を通して、日常生活においても敏速に行動できるようにする。また、グループ活動を通して思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。	A		
	3 体力・運動能力の向上及び、生涯スポーツへとつながる授業を実践する。(1①②③④)	・種目の特性や楽しさに触れ、個人及び集団の活動を通した課題解決型授業の実践により主体的に学び、体力・運動能力の向上を含め、生涯スポーツへとつながるようにする。	A		

別紙様式 2 (高)

芸術	1 個性豊かな人間性と情操の育成(1①②、3⑪)	・感性を高め、生涯にわたって芸術を愛好する心情をはぐくむために、展覧会や演奏会等の案内をし、近隣の美術館やホールで作品等に触れる機会を増やす。また、ICT 機器等を活用し、課題解決型授業の実践により、創造力や表現力を涵養する。	A	A	・新課程に移行していることを踏まえた授業の計画、実施をする。 ・引き続き 3 科目担当で情報交換を密にする。
	2 基礎表現力の育成と学習環境の整備(1③、3⑬⑭)	・芸術 3 科間の協力を推進し、生徒の実態に応じた丁寧な指導により、基礎表現力をつける。その上で、意図に応じた表現方法や表現技法を創作活動に生かす。また、学びやすい学習教育環境となるよう整備に努める。	A		
	3 個人の能力・進路に応じた指導(2⑥)	・芸術の幅広い活動を通して、芸術的な見方・考え方を深化させる。また、芸術系大学進学希望者の進路を実現させるための教育課程や年間計画を立案し、個の能力に応じたきめ細かな指導を行う。	A		
外国語(英語)	1 外国語学習の意義を認識させ、英語学習に対する意欲を高める。(1①②③④、2⑨⑩)	・英語の基礎学力の定着と向上を図る。	A	A	・新課程を踏まえた授業の実施・計画 ・ICT 機器の活用方法の工夫 ・対話的・主体的学びの更なる促進
	2 授業において幅広い言語活動を行いながら、4 技能をバランスよく指導する。 (1①②③④、2⑨⑩)	・ALT との TT やディベート活動を通して、英語を用いて情報を整理し、論理的思考に基づいたコミュニケーションを積極的に図ろうとする態度を育成する。	A		
		・大学入学共通テストへの対応の充実と英作文指導を継続的に行うとともに、希望進路に対応したきめ細かい受験指導をする。	A		
		・英語表現や論理・表現、サイエンス・イングリッシュの授業を通して、英語による基礎的なプレゼンテーション能力を育成する。	B		
家庭	1 社会の変化に対応した指導の充実(1①⑤)	・最新の情報を精選して教材として使用する。	A	A	・ICT 機器をより効果的に活用できるようにする。 ・主体的な学びができる課題設定の工夫。
	2 実験・実習、体験学習の工夫(1②③、3⑭)	・衣食住の他、保育・福祉・消費生活など幅広い知識を身に付けさせる。 ・実験や実習、実物の提示、グループワークを多く取り入れ、限られた環境の中で、1 回でも多くの実験・実習を取り入れ、体験を通して具体的に学習させる。	A		
		・被服製作作品、課題プリントレポート等を期限までに主体的に取り組ませる。 ・調理実習時の身支度を徹底させ、安全、衛生面に十分留意するよう指導をする。	A		
	3 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の推進(2⑨)	・ホームプロジェクトの意義を理解させ、実践させる。	A		
		・家庭クラブにおける研究内容の充実を図り、昨年度同様の成果をあげられるよう計画的に研究や発表準備を進めていく。	B		
情報	1 情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法の習得(1①②)	・科学的な根拠に基づいた判断力を身につけさせる。 ・合理的に解決方法を選択する力を身につけさせる。 ・情報及び情報技術を問題の発見と解決に、効果的に活用するための技能を身につけさせる。	B	A	・場面に応じた情報技術の活用ができるようにする。 ・共通テストに向けた学習計画の検討。
	2 情報に関する法規や制度、情報セキュリティ・情報モラルの重要性、情報社会における個人の責任についての理解(1③⑤)	・法律や制度・情報セキュリティや情報モラルの意義を理解させる。 ・バックグラウンドの情報技術を知って適切に対応する力を身につけさせる。	A		

別紙様式 2 (高)

	3 情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解 (1 ②③④)	・人に求められる仕事の変化を理解させる。 ・情報社会をよりよくする方法・対応を考察し提案する力を身につけさせる。	A		
教務部	1 探究力と学びに向かう力の育成を踏まえた教育課程の編成 (1 ①②③④⑤)	・SSH の研究成果を活かし研究題目を踏まえた教育課程を編成する。	A	A	・I C T教育を進めるうえで、必要な器具を調査し、必要に応じて購入する。 ・各学年、各分掌と連携し、学校から発する情報を積極的にHPに掲載する。 ・学校PR委員を中心に、水戸二高の魅力を外部へ発信する。 ・校内諸規定の見直しを図る。
		・教育課程の自己点検、自己評価を通して、水戸二高の将来像を見据えた、新教育課程の研究に努める。	A		
		・教育課程編成における各教科間の共通理解を図る。	A		
	2 各分掌間の円滑な連携と授業時間の確保 (5 ②②④)	・校務分掌の円滑な運営と連携を図る。	A		
		・学校行事等の精選を行い、授業時間を確保する。	A		
		・週ごとに授業交換を行い、自習時間のない時間割を編成する。	A		
	3 情報管理の徹底と安全性の研究と成績処理 (5 ③)	・授業の動画配信について、より適切に活用できるよう研究する。	A		
		・校務支援システムが円滑に運用できるよう努める。	A		
		・ファイルサーバーのセキュリティについて研究し、スムーズな運用に努める。	B		
	4 ハード・ネットワーク、視聴覚機器の管理 (1 ①、5 ③)	・タブレット、電子黒板、教室用 PC 等の ICT 機器や wifi の維持管理に努める。	A		
		・消耗品の在庫の管理に努める。	A		
		・ネットワーク上のトラブルに速やかに対応できるよう研究する。	B		
		・視聴覚設備、放送室・体育館の放送設備の適切な管理、運営に努める。	A		
	5 開かれた学校づくりの推進 (4 ⑯⑰⑱⑲⑳)	・学校ビジョンの共通理解と広報活動を推進する。	A		
		・ホームページの更新頻度を維持し、さらなる充実を図る。	A		
		・公開授業参観をさらに充実させる。	B		
		・常設委員会と連携し、生徒を主体とした学校PRを積極的に行う。	A		
生徒指導部	1 基本的生活習慣の確立 (3 ⑪)	・公共マナーの向上を目指し、マナーアップ運動・学期毎の全体指導・月初めの登校指導を行い、生徒一人ひとりの規範意識を高める。	B	B	・今後も、きちんと制服を着用することを話していく。 ・歩きスマホやイヤホン歩行の危険性を理解させる。 ・校則の見直しを進める。
		・スマホ家庭のルールづくり運動を行う。また、ICTの活用に関するルールづくりを行う。	B		
		・不審者や痴漢被害等に対して、警察と連絡を取り、生徒の安全を守る行動を行う。	B		
		・生徒会と協力して、生徒の生活について検討する。	A		
	2 交通安全指導の推進 (3 ⑪)	・茨城県警や水戸警察署に協力を依頼し、自転車ヘルメットの努力義務化や安全運転指導や交通講話を行う。	B		・ヘルメットの着用の必要性を理解させ、着用を呼びかける。
		・交通安全週間に合わせて生活委員会・生徒会役員で登校指導を行う。	A		
		・自転車安全点検 (2 回) を行う。	A		
	3 いじめ未然防止・早期発見 (3 ⑫)	・学校生活実態調査 (3 回) を行う。	A		・教員間での情報共有を早急に行い、学年だけで動くことなく全体で対応する。
		・いじめについて保健厚生部と研修会を企画し、いじめ未然防止授業を行う。	B		
		・教員間で生徒情報を共有し、早期に対応する。	B		

別紙様式 2 (高)

特別活動部	1 自主的活動の育成 (2⑦⑧⑨)	・生徒会を中心に、学校行事・委員会活動・リーダー研修会(前後期2回)・ホームルーム活動・部活動等、積極的に取り組みリーダーを育成する。	A	A	・積極的に学校行事に関わる生徒の育成を継続する。
		・学校内外の教育環境に自主的に関わり、行動する姿勢を育成する。	A		
		・コロナ禍の状況の中で工夫をしながら自主的に活動できる力を育成する。	A		
	2 奉仕の精神の涵養と環境 に対する意識の高揚 (2⑦、4⑰)	・校内外のイベントなどにも積極的に参加することで奉仕の精神を育成する。	A		
		・環境問題に継続して取り組み、節電・ペットボトルキャップ回収等を行う。	B		
	3 キャリア・パスポートの活用 および推進(2⑨⑩)	・学校行事や毎日の生活を通して自己を見つめる姿勢を身につけ、キャリア・パスポートを活用して自己の将来が見通せるように働きかける。	A		
進路指導部	1 進路に対する意欲の向上、 学習時間の確保と自学自習力の 育成指導(1③⑤、2⑪)	・進路講演会をはじめ、キャリアガイダンス・大学見学会・大学模擬授業など、これまで実施してきた行事の継続と内容の深化を図る。	A	A	・各学年の進路指導部の先生方が、主体的で多様な取り組みを実践し、進路指導の行事が、より効果的で内容の深いものになった。今後も学年との連携を深めていく。
		・全学講座(年間13日)や課外を効果的に計画・実施する。特に、長期休業中の課外については生徒の要望を踏まえて、柔軟且つ弾力的に運用する。	A		
		・1学年の段階から生徒の進路希望の視野を広げる。特に多くの大学の大学案内を進路指導室内外に準備し生徒に配布するなど、幅広い情報提供を行う。2学年においては、早めの受験体勢への切り替えを図っていく。	A		
	2 進路目標の設定および 学習意欲の喚起による 学力向上 (2⑥、3⑫、4⑱)	・予習・授業・復習の学習習慣を定着させる。2年次までに英語・数学・国語の3教科の基礎力を養い、3年次で地歴公民や理科の学習を中心に据えるよう、3年間を見通した学習の在り方を指導する。	A		
		・生徒の適性や興味関心を踏まえた上で、適切な文理選択ができるように情報を提供するなど学年に協力する(特に1学年)。	A		
		・進路資料・個人面接用資料の作成と頒布、活用を推進する。	B		
		・大学入試が近づいた3年生はもちろん、1・2年生の進路指導室来訪者に対しても丁寧な個別面談を行い、生徒の志望に寄り添った個別進路指導を心がける。	A		
		・保護者会などを通して保護者との情報の共有化を図り、保護者に対する積極的な情報発信に努める。	A		
	3 生徒の第1志望実現の ための援助促進、難関私立大学 を含む国公立大100名以上合格の 達成(1⑤、2⑥、3⑫)	・大学入学共通テスト出願説明会および国公立大学出願先検討会の計画・実施を行う。	A		
		・学校推薦型選抜の校内選抜について、丁寧な指導と正確な手続きに努める。	A		
		・各学年の小論文指導担当と連携し小論文指導説明会開催と小論文模試への援助をする。	A		
		・新学習指導要領の実施、大学の学部学科改編など、本校を取り巻く環境の変化に対応し、最良の教育課程を絶えず模索する。	B		
		・大学入試改革に対して万全の対策を図るとともに、各大学の受験情報の収集に努める。	A		
図書部	1 「読書センター」として の機能充実(1②③)	・前期・後期1回ずつ校内読書週間を実施し、LHRでビブリオバトル(前期)を行う。	A		・今年度不十分であった資料の充実を図る。
		・LHR等を利用して読書活動を支援する。	A		
		・図書等の資料の充実に努めるとともに、資料提供の工夫をする。	B		
		・電子書籍の購入についての検討を継続する。	B		

別紙様式 2 (高)

	2 「学習センター」「情報センター」として資料の提供および利用指導の充実 (1②③⑤、2⑥⑨、4⑱)	・各教科や進路指導部と連携しながら、生徒に役立つ資料を充実させる。	B	A	・司書室常駐の先生がいるため利用人数は増加した。継続していきたい。 ・図書委員会活動が活発に行われた。継続していきたい。 ・貸し出し冊数が減少しているため、増加させるための手段を講じる。
		・小論文や面接の指導における資料提供を積極的に行う。	A		
		・探究学習が円滑に行われるように図書館の環境を整える。	A		
		・現在使用している全ての教科書を閲覧できるようにしておく。	A		
		・学校のホームページの図書館の専用ページ「水戸二高図書館」を充実させる。	A		
		・職員からの図書購入希望に随時対応する。	A		
		・視聴覚資料の充実を図る。	B		
	3 生徒図書委員会の充実 (1⑤、2⑧⑨)	・必要に応じて適宜生徒図書委員会を開く。	A		
		・図書委員による授業に役立つ本の展示や図書館カフェ等を積極的に行う。	A		
		・「図書館便り」「図書館報」の発行を行う。	A		
		・生徒図書委員による図書の選定、店頭選書を行う。	A		
		・生徒図書委員の校外研修を行う。	A		
		・中央・水戸地区の生徒図書委員研修会に参加する。	A		
保健厚生部	1 健康の保持増進 (3⑫⑬)	・心身の健康状態の把握に努め、適切な指導・助言を行う。	A	A	・日頃からの職員間の情報共有と生徒を支援するための仕組みづくりが必要である。 ・危機管理マニュアルの見直しと安全計画の再確認を進める。
		・心身の相談活動を推進する。	A		
		・職員間の情報の共有	B		
	2 校舎内外の清掃の徹底と環境の整備 (3⑭⑮)	・防災対策を含め、校舎内外の安全点検を行う。	A		
		・危機管理マニュアルの見直し・安全計画の再確認。	B		
		・ゴミの分別処理・減量化を呼びかける。	A		
		・換気・健康チェック・手指の消毒の徹底。	B		
	3 奨学生関連事務の的確な運営	・奨学生募集の情報を確実に伝達する。	A		
		・提出書類作成手続きの指導を適切に行う。 ・関係する分掌や学年と連携、協力して円滑に実施していく。	A B		
渉外部	1 PTA 活動を円滑に実施する。(4⑰)	・PTA 役員及び各種委員会委員と学校との協力体制の構築に努め、「PTA だより」等をとおして教育活動を家庭に伝える。	B	B	・引き続き、関係各所との協力体制の構築、連帯を図る。
		・保護者からの要望に耳を傾けながら、PTA 役員間の信頼と連帯強化を図る。	A		
	2 同窓会「秀芳会」との連携 (4⑳)	・連携をさらに推し進め、本校の教育活動への各種支援に対する理解を深める。	B		
教育デザイン部	1 SSH 事業の推進 「探究力を伸ばし、積極的に世界を目指す女性科学者とサイエンスリーダーの育成」 (1①②③④⑤、2⑨⑩、4⑯⑰⑱、6㉓)	(1) 課題研究に関する取り組みにより、科学に対する興味や関心、知識、理解を深め、科学的思考力を育成する。 ・自然科学A ・SS 課題研究 ・探究Ⅰ (START プログラム) ・白百合 (探究)	A	A	・総合的な探究の時間において、探究テキストの見直しを進め、1 学年での「探究Ⅰ (START プログラム)」と2 学年での「探究Ⅱ」の繋がりを明確にした取り組みが必要である。また、全職員で「探究Ⅱ」の指導にあたるため、情
		(2) 科学技術系人材の育成を目指す取り組みにより、発想力や問題解決力を育成する。 ・SS 理科Ⅰ・Ⅱ ・自然科学B ・データサイエンス ・サイエンスツアー ・SSH 講演会 ・科学部・家庭クラブ	A		
		(3) 国際性を高め、世界を目指す女系科学者を育成する。 ・サイエンスイングリッシュⅠ・Ⅱ ・SSH 海外研修	A		

別紙様式 2 (高)

		(4) サイエンスリーダーを育成し、研究開発成果の普及を行う。 ・自然科学体験学習 ・平磯・白亜紀層自然研修 ・サイエンスサポート ・女子高生 STAEM コンテスト ・研究開発の普及	A		報共有や発表会の在り方について、検討を重ねていく。 ・科学探究について、これまでの「SS 課題研究」を深化させた「理数探究」に取り組むとともに、SSH 事業の精選を進め、科学教育を推進する。 ・外部機関との連携を強化し、自然科学体験学習や女子高生 STEAM コンテストを深化させ、サイエンスリーダー育成のための研究を進める。 ・国内語学研修やオーストラリア海外研修、SSH マレーシア海外研修を柱に、国際性を高めるための実効的な取り組みについて研究を進める。 ・学校HPの更新に努め、情報公開を進める。
		(5) SSH の取組によって得られる効果についての共通理解	B		
		(6) SSH 事業の精選と進化 (類型・コース、学校設定科目の再考等)	A		
	2 国際理解教育の推進 (2⑧⑨⑩)	(1) 多様な文化や価値観を持つ人々との交流を通して、グローバルな視野を育成する。 ・国際理解講演会 ・伝統芸能鑑賞会 ・国際理解活動や交流会への参加 ・グローバルフォーラム ・グローバルウィーク ・グローバルカフェ ・道徳講演会	A		
		(2) グローバルリーダーを育成する。 ・海外研修 ・海外進学および留学の支援 ・グローバルクラブ	A		
	3 探究・教科横断的学習の推進 (1①②③④⑤、6②⑤⑥⑦)	(1) 探究の学びに関する教員研修会・研究協議会の実施	B		
		(2) 探究テキストの更新と公開	B		
		(3) 生徒成果の発表・公開、学校HPの随時更新	A		
		(4) 探究の学びの検証・評価と効果的指導方法の開発	B		
	4 積極的な情報発信 (4⑩⑬⑭、5③)	(1) 校内での情報共有を進めるとともに、ICT 機器の積極的活用と充実を図る。 (2) 学校HPによって、諸活動を随時発信する。	A		
事務部	1 学校の窓口としての適切な接遇を行う (4⑬)	・電話や窓口等においては、誠意ある態度・応対によって県民サービスの向上を図るとともに、生徒や保護者との関わりを通じて相互の信頼関係を高めるよう取り組む。	A	A	・各室エアコンの設置経過年数を踏まえ、更新に必要な額を把握し、整備計画を立てる ・安心安全な教育環境を継続していくため、法令点検や校内巡視により不良箇所の早期発見・修理に努める。
	2 予算を計画的・効率的に執行する (1①②③④⑤5③)	・限られた財源の中、将来を見通した教育環境整備を図るため、計画的・効率的に予算を執行する。	A		
	3 安心安全な学校生活のための施設管理を行う (3⑭)	・職員による校内巡視や専門業者による設備点検を実施し、不良箇所の把握と速やかな修繕を行うことにより、生徒が安心安全に学校生活を送ることができるよう取り組む。	A		
第1学年	1 高校生としての生活習慣の確立 (2⑨⑩、3⑪、4⑰)	・個人面談等を通じて高校生としての自律的な生活スタイルの確立を促し、高校生活を有意義に過ごせるように支援する。	A	A	・全体として生徒は学校の規則を守り、落ち着いた生活を送ることができている。また、担任による個人面談を複数回実施し、生徒理解に努め、学習面・生活面において生徒一人ひとりに対応して指導することができた。
		・公共マナーや社会ルールを身につけ、品位ある行動がとれるよう指導する。	A		
		・清掃や整理整頓を常に心がけるようにさせ、安全で落ち着いた学習環境を整える。	A		
		・部活動・ボランティア活動等などの特別活動を通じて、協調性やリーダーシップを育てながら、学校生活の充実を図る。	A		

別紙様式 2 (高)

	2 学習習慣の確立と学力向上(1②③⑤)	・「予習・授業・復習」の学習サイクルを確立するなど、家庭学習を習慣化することで授業内容の定着を図る。	A		・一方、学校生活で支援が必要な生徒に対しては、教員間の共通理解・共通認識をより一層徹底させ、学校全体で指導できる体制を作ることが今後の課題である。 ・進路指導においては、進路の行事を通して生徒が自分の将来について主体的に考え、適切に文理選択することができた。次年度は、進路実現に向けた2年目として、学部・学科の研究と基礎学力の定着にさらに取り組ませたい。
		・生徒が学ぶことの意義を理解し、意欲をもって主体的・能動的に学習に取り組めるように支援する。	A		
		・探究活動を通して、自己の在り方生き方について考えさせるとともに、資料を活用する力やプレゼンテーション力を養成する。	B		
	3 進路意識の涵養(2⑥)	・LHR・個人面談や、進路講演会・キャリアガイダンス・大学見学会などの進路の行事を通して、生徒が自分の将来について主体的に考え、適切な文理選択ができるように支援する。	A		
第2学年	1 進路目標の明確化(2⑥、3⑫⑬)	・進路講演会・大学模擬授業などの進路関係行事を効果的に実施し、進路意識の向上を図る。	A	A	・昨年度と比較すると生徒たちは着実に成長している。授業や課外などの学習面やクラスの様子、各行事への取り組み、さらには部活動などの生活面において結果を残すだけではなくそれぞれに積極的に取り組んでいる様子が見て取れる。 ・進路や学校生活に悩みを持つ生徒に対しては、担任や副担任、養護教諭、本人、保護者などが連携して対応することができている。今年度はあらたに専門機関の先生方からのアドバイスもいただくなど、より多くの方々と情報の共有ができた。今後も継続する必要がある。学校評価のアンケートの結果にも反映されていることを願う。
		・進路指導部の連携を密にし、生徒に向けた的確な進路情報の提供に努める。	A		
		・個人面談を充実し、生徒の適性や希望の的確な把握と助言に努める。	A		
	2 生活習慣・学習習慣の確立と学力向上(1⑤、3⑪)	・授業を中心として、生徒が学ぶことの意義を理解しながら、意欲をもって主体的・能動的に予習や復習等の学習に取り組めるように支援する。	A		
		・課外・小テストなどを適切に設定し、個に応じた学習指導に努める。	A		
		・公共マナーや社会ルールを身につけ、品位ある行動がとれるよう指導する。	A		
	3 特別活動等の充実(1③④、2⑦⑧⑨)	・白百合セミナー(探究)を通して、予測困難で何が正解なのか分からない時代を生き抜いていく力を育成するとともに、学んで「問う」ためのスキルを獲得するための支援をする。	A		
		・調査や研究および発表に取り組むことで、論理的思考力やプレゼンテーション力を養成する。	B		
		・特別活動への積極的な参加を支援し、活動の意欲を喚起し、協調性やリーダーシップ等を育てながら、学校生活の充実を図る。	A		
		・SSHや国際理解等の諸行事を通して、多様な分野における学びを深めるとともに、多様化する社会の中で自己を活かして生きる姿勢を育てる。	B		

別紙様式 2 (高)

第 3 学年	1 自発的な学習と学力の向上 (1 ②③⑤)	・家庭学習を記録することを通して、計画的に学習に取り組ませるとともに、効率的な学習ができているかなど、学びに向かう力を推進する。	A	A	・3年生になると、各担任や教科担当者と生徒がお互いのことをよく理解している場合が多く、学習指導や進路指導、また生活指導においてその利点を生かして指導することができた。特に授業や進路決定の面談においては、生徒を理解していることで、円滑な実施ができた。 ・一方で、進路実現に向けてのストレスや緊張が高まり、これまで以上に細やかな指導が求められる場面も少なくなかったが、担任を中心に学年全体で対応することができた。また、引き続き SC や SSW の協力を求める事例もあったが、少しずつ状況に改善が見られた。
		・学習室、学校図書館等の活用を促し、自律的学習する態度を育成する。	A		
		・各教科と連携しながら、必要に応じて課外学習や補習を実施する。	A		
	2 進路実現に向けた具体的な取り組みの実践(2 ⑥⑩)	・グローバルな視点で物事をとらえるとともに地域社会にも目を向け、社会で生きていくための様々な情報やスキルを獲得できるよう支援する。	A		
		・面談や講演会、集会等を通して、生徒が計画的に進路希望の実現に取り組めるように支援する。また保護者にも進路情報を提供し、連携を図る。	A		
	3 特別活動等の充実 (2 ⑧⑨⑩)	・高校3年生としての自覚を促し、諸活動に意欲的に参加できるよう奨励する。	A		
		・学校行事や部活動、委員会活動等においてリーダーシップを発揮し、円滑な活動ができるように積極的に働きかける態度と姿勢を育む。	A		
	4 心身の健康と成長 (2 ⑦⑧、3 ⑫)	・健康な学校生活を送れるように、学年と養護教諭やスクールカウンセラーが情報を共有し、各家庭と連携しながら生徒支援を行う。	A		
		・集会や LHR、行事等をとおして、生徒の成長を促す働きかけを行う。	B		

※ 具体的目標最後尾の数字は、第 1 ページの学校の重点目標 1 ①～5 ㉗の関連を示す。

※ 評価基準：A 非常に良くできた B よく出来た C 普通 D やや不十分 E 不十分